



題名: 北欧の教育方法で酒田を変えよう!

発表者氏名: 佐藤里桜、佐藤萌々

背景・目的

▷背景

- ・男女の社会的平等などのジェンダー問題に関心がある。
- ・ジェンダー平等が進んでいる国とどのような差があるのか疑問に思った。

▷目的

- ・ジェンダー平等の実現につなげる。

すでに分かっていること

- ・日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中**116位**。特に、**経済は121位**、**政治は139位**と遅れている。
- ・日本は幼児期のジェンダー教育に力を入れている

仮説

日本の幼児期からの**ジェンダー教育を活発化**させることで、ジェンダー平等の実現につながる。

研究の方法

1. ウィズに酒田市内のジェンダー教育の現状について、市内の保育施設にジェンダー教育の取り組みについてアンケートを行う
2. ジェンダー教育の必要性を知ってもらう、興味を持ってもらう方法を考える。
3. 酒田市にワークショップの開催を提案する
4. ジェンダー教育やジェンダーバイアスについて多くの人に知ってもらうためにパンフレットを作成する。

結果

1. 酒田市内では現在ジェンダー教育を行っておらず、保育施設ではジェンダー教育は不必要と考えている。

市内ではジェンダーによる不平等を感じている人が約半数いる。

2.3.4.

ジェンダー教育の必要性を大人の方々に知ってもらうため、ワークショップの開催を考えウィズに提案した。多くの人にジェンダー教育やジェンダーバイアスを知り、興味を持ってもらうために、**パンフレットを作成**した。

結論

直接ジェンダー教育を活発化させることはできなかった。しかし、間接的ではあるがパンフレットを作成するなどして、ジェンダー平等の実現に近づくことができた。

考察

日本がジェンダー平等が進んでいない原因は幼児期の教育が足りないだけでなく、**大人の自分事として捉える意識や知識が北欧に比べて低いこと**にあった。

子供の教育より、まずは**大人の意識を変えることが必要**である。

パンフレットのほかにもジェンダー教育、ジェンダーバイアスを知ってもらう方法を考えることが必要。

今後の展望

- ・ワークショップの実現に向けて、興味を持ってもらうためにはどのような方法がよいのか考えたい
- ・ウィズと協力してワークショップを開催したい

参考文献

女も男も行きやすい国、スウェーデン
内閣府資料
Global Gender Gap Report 2022